

大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム
2020年度活動報告会・2021年度第1回共同FD研修会 実施報告

1. 実施日時
2021年6月26日 (土) 14:00~15:40
2. 実施方法
Web会議システム「Zoom」によるオンライン配信
3. 対象
大学コンソーシアム市川参画校専任教職員、他大学教職員
※活動報告会には、プラットフォーム内外の関係者をはじめ、地域の住民なども参加可能
※職員はSD研修会として実施



(案内チラシ:表面)

4. 参加者数
99名
5. 当日のプログラム

[2020年度活動報告会 (14:00~14:35)]

◇挨拶

大学コンソーシアム市川/大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム 会長
千葉商科大学学長 原科幸彦

◇2020年度活動状況及び評価結果の報告/2021年度活動状況等の報告

大学コンソーシアム市川 推進委員会委員長
千葉商科大学政策情報学部教授 朽木 量

[共同FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育の推進
～大学の取り組み紹介～」 (14:35~15:40)]

◇「千葉商科大学におけるデータサイエンス教育の現在」

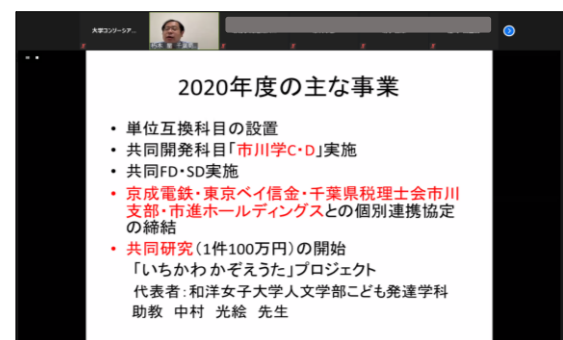
千葉商科大学 基盤教育機構助教 赤木 茅

◇「東京医科歯科大学におけるAI・データサイエンス教育の試み」

東京医科歯科大学 教養部教授 中林 潤

◇総括

大学コンソーシアム市川推進委員会 副委員長・東京医科歯科大学 教養部教授 奈良 雅之



(当日の様子)

6. アンケート回答結果 (回答者数 58名)

(1) 全体の流れはいかがでしたか。

大変良い	28名 (48.3%)	おおむね良い	30名 (51.7%)	あまり良くない	0名 (0%)	良くなかった	0名 (0%)
------	----------------	--------	----------------	---------	------------	--------	------------

(2) 開催時間についてはいかがでしたか。

長い	3名 (5.2%)	ちょうど良い	54名 (93.1%)	短い	1名 (1.7%)
----	--------------	--------	----------------	----	--------------

(3) 2020年度活動報告会はいかがでしたか。

大変理解できた	14名 (24.1%)	理解できた	41名 (70.7%)	あまり理解できなかった	3名 (5.2%)	理解できなかった	0名 (0%)
---------	----------------	-------	----------------	-------------	--------------	----------	------------

※通信環境の不調のためとのこと

(4) 共同FD研修会「数理・データサイエンス・AI教育の推進～大学の取り組み紹介～」はいかがでしたか。

大変参考になった	16名 (27.6%)	参考になった	41名 (70.7%)	あまり参考にならなかった	1名 (1.7%)	参考にならなかった	0名 (0%)
----------	----------------	--------	----------------	--------------	--------------	-----------	------------

※通信環境の不調のためとのこと

(5) その他、ご意見・感想（自由記述・一部抜粋）

・「数理・データサイエンス・AI」教育について、社会的動向や実際の授業展開などを解説いただき、大変参考になりました。学生の学習動機について多様な状況があるものと感じております。基本的な教育プログラムなどを「大学コンソーシアム市川」にて、連携して開発することも有意義であるように考えました。

・大学ごとに学生の状況が異なることから、自分の大学だったらと当てはめて先生方が考えることが多いと思います。取り組みの前に、対象学生の傾向や全体における割合などを前提としてお話しいただけるとよりイメージしやすいと思いました。非常に興味深いお話をありがとうございました。

・AIには、興味があるので、またの機会があれば参加したいです。

・データサイエンスが今後の教育に重要な意義を持つことは認識していたつもりでしたが、実際にどのように取り組むべきなのか、もやもやしていました。今回具体的な事例をお聞かせいただき、少しですが、イメージがつかめた気がします。これからプログラミングを学んだ子どもたちが大学に入ってくる時代になると、彼らがどのような知識を持って来るのか、さらに深く学んでいく必要があるとも思っています。

・赤木先生のご報告も、中林先生のご報告も（ご発表順）とてもとても興味深く拝聴いたしました。学生に対するデータサイエンス教育が想像以上に進んでいることを実感しました。こうした教育を受けている学生に対し、自身の授業をどのように構築すればいいのかをあらためて考えさせられました。

・近い将来には、学習指導要領の改訂により高校でプログラミングの基礎を学んだ学生が入学してきますから、大学でのプログラミング教育もさらなる発展・工夫が必要になると思われます。今後もぜひ情報交換させて頂ければと思います。

・情報リテラシーについても学生以前に教職員のデータ処理能力が重要ではと思います。学生教育ばかりではなく教職員教育に焦点を当てた議論もされてはどうでしょうか。

・巷では、DX関連の文字が踊っております。本講演を通して、あらためてデータサイエンス教育の重要性や教員自体の意識改革の必要性を再認識致しました。有難うございました。

・私自身は文学部の教員として、数学に対する圧倒的な苦手感を持つ学生がほとんどであるところで、データサイエンスを取り込んだ授業をどのように展開していけるかという点に、正に現在進行形で苦心しているところです。限られた15回の授業のなかでどう組み込んでいくか、オンデマンドをうまく活用して進めていくことについては、コロナ禍での学生の授業負担（オンデマンド授業の課題が多く、キャパオーバーしている学生が少なくないようです）にも配慮しつつ、御講演を参考に今後も継続的に考え工夫していきたいと感じました。また、「習うより慣れろ」（赤木先生御講演の、Pythonスクリプトを配ってしまって実行させる、そこから変更・編集させることを通して慣れさせていくといった点）に重点をおいた進め方などは、早速に取り入れることができる即効性のある処方箋でありがたく存じました。中林先生の御講演の最後に教訓として示された点については、大変共感するものがありました。個人的には、ステージ1からステージ0にドロップアウトしてしまう学生へのケアについて興味があります。また御教示いただく機会があれば幸いです。最後の統括のお話も、非常に共感しながら伺いました。プログラミングやデータサイエンスを学んだ先の未来を、魅力的に提示することについても改めてしっかりと考えてみたいと思います。

・この分野における日本や海外の現状について教えていただき、また、両大学の情報教育授業の取組みから具体的に学ばせていただき、自分自身や本学の現状への問題意識が高まりました。また、遠隔授業を実施する現在、赤木先生の統計学入門授業ご紹介にあったオンデマンドによる音声付解説講義とそれに続く演習授業との併用手法は大変参考になりました。

以上